

名取市【宮城県】 歴史文化基本構想

■策定年度：平成31年3月 ■人口：78,672人 ■市域面積：98.17km²
■担当課：名取市教育委員会 文化・スポーツ課（平成31年3月現在）



海・山・平野などの豊かな自然環境や、恵まれた立地を背景に育まれた名取市の文化財は、東北最大の雷神山古墳に象徴される古墳文化や、全国的にも珍しい特徴を持つ名取熊野三社と熊野信仰に関わる文化財に大きな特色がある。これらをはじめとする貴重な文化財の歴史的価値や特性・魅力を、確実に未来へ継承するための保存・活用の基本的な考え方をまとめた。

5 歴史文化を表す つのキーワード

縄文のくらし、古墳文化、熊野信仰、
旧街道の宿と山村・農村、港まち「ゆりあげ」

課題

- ・保存・活用の拠点整備
- ・未指定文化財の把握
- ・基本台帳の整備
- ・主体者間や関連施設との連携

保存活用方針

- ・歴史文化を未来へ伝えるための保存・活用を推進
- ・保存・活用のための基盤整備
- ・関連文化財群を柱とした保存・活用の推進

保存活用のための取り組み

指定・登録制度を活かした保存・継承

従来から文化財の保存・継承に大きな役割を果たしてきた指定・登録制度を活用し、今後もその充実を図るとともに、関連文化財群などとの一体的な保存・活用を推進し、歴史的価値や魅力などの確かな保存・継承を図る。



保存・活用の拠点整備

構想中に掲げた目標実現に向けて、基本方針に沿った保存・活用の取り組みを推進するための拠点施設の整備に取り組み基盤強化を図る。展示・公開をはじめ、学習交流や調査研究などの活動を通じて、人・もの・情報を集め、繋げる拠点とする。

関連文化財群などの内容把握と情報共有

指定・登録文化財や6つの関連文化財群とその構成文化財に重点を置き、計画的・継続的な調査・研究を行なうことで、基礎的な情報の蓄積や、歴史的価値や特性・魅力の把握などの情報基盤の強化に努め、その共有や周知を図り目標実現へつなげる。

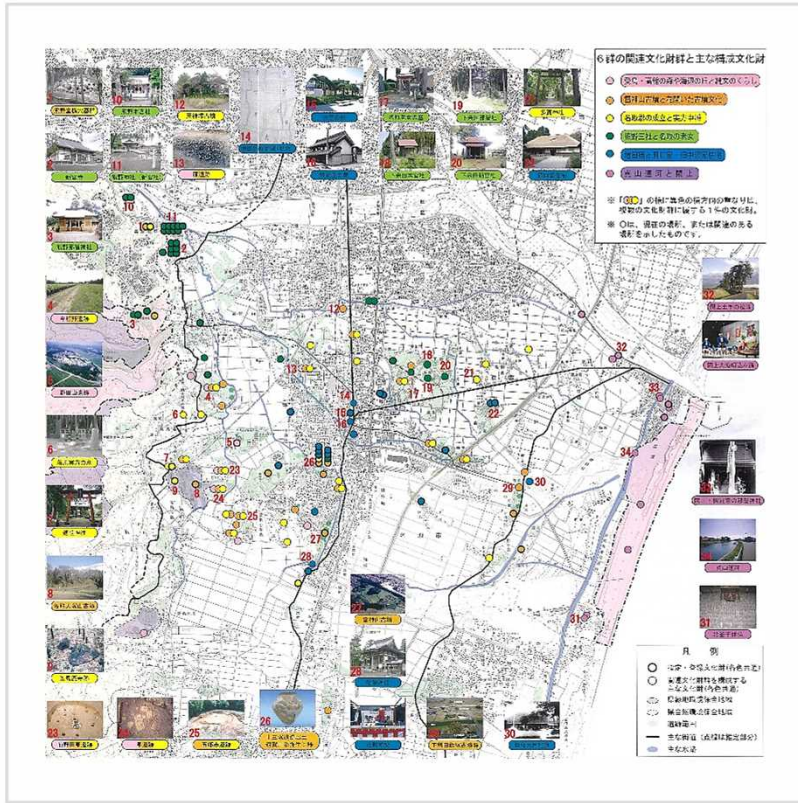


市民参加や関連施設との連携推進と人材育成

行政・市民・関係団体などの保存・活用の主体者が、基本方針に沿った取り組みを主体的・継続的に進めるよう、拠点施設や関連施設の活用や活動への参加を促しながら連携強化に努めるとともに、次世代を担う人材を育成し保存・継承の体制の構築を図る。



関連文化財群



恵まれた自然環境や立地を背景に、先人達が育み守り伝えてきた多数の文化財を、雷神山古墳に象徴される古墳文化や熊野信仰関連の文化財をはじめとした、名取の歴史文化の特性や魅力を物語るテーマのもとにグループ化し、保存・活用の核となり、まちづくりや観光振興にも活かせる6つの関連文化財群を設定した。

ストーリー

- ① 愛島・高館の森や海辺の丘と縄文のくらし
- ② 雷神山古墳と花開いた古墳文化
- ③ 名取郡の成立と実方中将
- ④ 熊野三社と名取の老女
- ⑤ 増田宿と洞口家・旧中沢家住宅
- ⑥ 貞山運河と関上

策定後の成果（見込まれる効果）

① 保存・活用の道標となる

未指定のものや周辺環境も含めた地域の貴重な歴史文化や、その歴史的価値・魅力の確かな保存・継承の実現のために、今後も計画的・継続的に取り組むべき事項についての基本的な考え方や方向性、優先度を示す道標となり、効率的かつ効果的な保存・活用のための活発な活動につながる。



② 名取らしさの顕在化

策定の過程や策定後の取り組みにより、これまで把握された歴史文化の価値・魅力・特性の再確認や、関連文化財群をはじめとする「群」としての新たな価値の創出、未指定・未調査の歴史文化資源の情報蓄積や、それに基づく情報共有や周知により、保存・継承への意識や郷土への愛着の向上にもつながる。



③ 活動を担う主体者を繋ぎ育てる

策定過程や策定後の取り組みにおいて、市民・関係団体・文化財所有者などとの協働や参加を得ることで、行政も含めた保存・活用を担うこれら各主体者間の連携が生まれ、地域づくりや観光振興のみならず、次代を担う人材の育成にも資するものとなり、未来へ向けた確かな保存・継承につながる。

